

## 今年度の 活動計画

新しく選出された役員の皆さんとご相談の上、今年度の活動について次のような計画を作りました。

ご意見ご要望などがありましたらクラス委員の方にお申し出てください。

### ☆ 秋の小旅行

10月上旬頃ハイキングのような郊外で遊ぶ会を催したいと思います。秦さんに企画をお願いしておりますので、行き先や日時などのご希望をお聞かせください。

### ☆ 公民館フェスティバルへの参加

毎年秋に中央公民館で行われるフェスティバルへ参加したいと思います。私たちの会の独自性が出しにくいので何時も困ってしまうのですが、なにか良い案がありましたら是非ご提案ください。

### ☆ 中国語研修旅行

96年10月に手作りの北京旅行を実施いたしました。今年是一般の中国ツアーに参加するか、台湾にするかなどいくつかの案を検討したいと思います。末岡さんに計画をお願いしておりますのでご希望などをお寄せください。

### ☆ 忘年会

12月17日(木曜)に行います。後藤さんに計画していただきますので場所や内容などのご希望をお聞かせ下さい。なお今年も「拍賣」(オークション)をやりたいと考えております。品物を中国関連のものに限定すべきか否かなどお考えをお聞かせください。

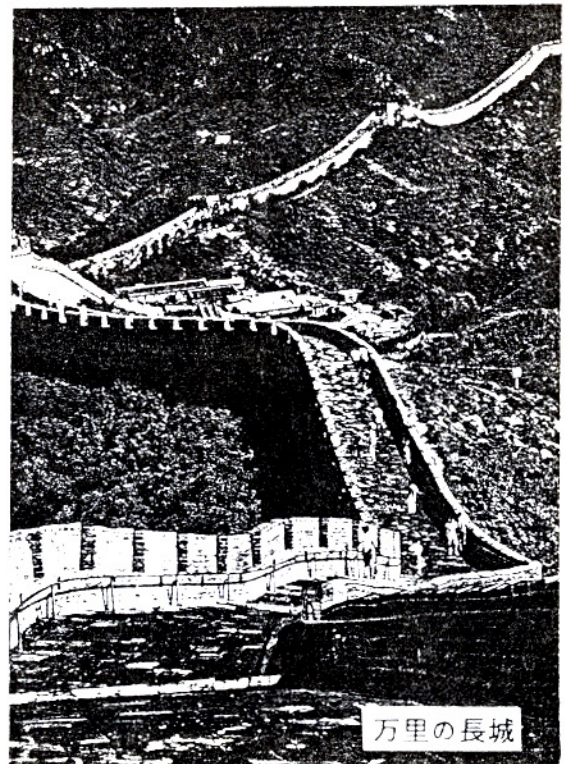
### ☆ 会報「にいはお」

一部の方のご協力のお陰で第2号を発行することができました。

これからも、三カ月に一回程度を目標に発行いたしたいと思いますが、なによりも会員の皆さんからの寄稿がなければ実現いたしません。

意見発表の場として、日ごろのお考えや体験したことなど、なんでも結構ですからお気軽に書いて寄せてください。原稿用紙を使う必要はありませんが、文字は老眼でも読めるように大きめにはっきりと書いて下さると助かります。

写真や挿絵なども大歓迎いたします。なお第3号は10月頃の発行を目指しておりますのでよろしく。





## 平成10年度 新役員選出

去る4月26日行われました総会において新役員が次のとおり選出されました。

学びやすく楽しい会となるように役員一同努力して参りますので皆様のご協力をお願いいたします。

会長 神山作市 (木曜)  
副会長 川端英一 (火曜)  
会計 末岡正敏 (木曜)  
会計監査 小林かほる (水曜)  
広報 鳥沢光代 (木曜)  
火曜委員 秦 講記  
水曜委員 五十嵐真美  
木曜委員 山田美佐子  
後藤香代子

## 会員名簿の訂正 をお願いします

### 火曜班に追加

18 池田 弘 平塚市片岡1223 4

☎58 5348 9875

19 石田麻友美 平塚市西八幡3 12 46 32 0650

大津さんの下に

石田 敬子 " " " 木曜

末岡 正敏 " 高村26 23 101 34 2989 "

05 秦 講記さんの備考欄に追記「火曜クラス委員」

### 水曜班に追加

21 松村 昭子 平塚市中原1 8-3 ☎61 105

☎36 0749

22 二宮栄見子 中郡大磯町大磯698-6 ☎61 0660

02 小林かほるさんの備考に「会計監査」と追記

### 木曜班

03 鳥沢光代さんの備考欄「会計監査」を抹消

### 火曜班

16 井山 徹 退会につき抹消



敦煌莫高窟の全景

## 男子厨房に入りて奮闘中

「お料理一年生」

星期二班 川端 英一

「你会作什么菜？」私のところで、李老師の質問内容が変わってしまった。これは、キツイ質問だ。本当のところ、作れる料理が何もないからだ。「御はん炊きと御みそ汁が出来ます」と丁重に答えたところ、星期三班のクラスメート間から、クスクスと笑い声が起こった。

あれから、4ヶ月、ベターホーム協会・藤沢教室へ月一回、三角巾とエプロンを携えて通っている。入会した「基本料理の会 男性クラス」は、札幌から福岡まで18教室あり、6年間で生徒数が10倍の3,200名を越えた人気教室である。わがクラスメート28名は、永いサラリーマン生活から解放された、好奇心旺盛な料理一年生だ。

4人一組が7班に分かれ、料理の基礎の基礎と調理法を習い、実習後楽しい試食のひとつとなる。5月度は「茶碗蒸しと切り身の煮付け」など、1960年頃のメニューで、健康的な食生活が身につくという。家で復習のため、レシピを二人分に換算し「茶碗蒸し」と食材を変えて「真鯛の煮付

け」に初挑戦。さて、風味と姿の方は、教室と同じように再現出来、旨い。

話は変わるが、キッチン引出の奥に一本の「菜刀」(中華包丁)がしまっている。1ヶ年の男性クラスを了えたら、別の「中国料理コース」なども習いたいと、この3月上海で買ったものだ。当てにしていた上海第一百貨店には、菜刀売場はなく、女店員から「張小泉」という

刃物店を教えてもらった。地図を頼りに、夜の南京東路を探し歩き、ようやく見つけることが出来た。同店で、次々といろんな種類の菜刀を出してもらい、その中から「薄刀」という肉や野菜を切る一般用を選んだ。普通の薄刀でも重さが約500グラムもあるので、超軽量(と言っても300グラムもあり、わが家の牛刀の約2倍もある)にしておいた。

刃先を研ぎ、大根を試し切りしてみたが、重さを利用して上からストンと推切りする感じで、和包丁と相当違っている。

今年も「餃子の会」にゲストとして、中国出身の女性に大勢来ていただいたが、菜刀に話が及ぶと、全員が「日本の包丁の方が使い易いので、菜刀は使っていません」とか。

せっかく苦勞して買って来た、私の菜刀の出番が将来、はたしてあるのかどうか、一寸気がかりである。しかし、料理の第一歩は包丁の使い方からという言葉もあり、菜刀の「刀工」(包丁さばき)も独習しておきたいと思っている。





あなたは黄河の流れを見たことがありますか？ また見たことがなかったらどんな河だと想像しますか。

黄濁した水が滔々と流れ、向こう岸が霞んで見わたせないほどの大河、一艘の小船が音もなく流れにまかせて浮かんでいる。私はこんな風景を勝手に想像していたのである。

一九九六年三月、私は「孟嘗君ゆかりの地と孔子の故郷を訪ねる山東省の旅」という長い名前のツアーに参加し、北京↓曲阜↓泰安(泰山)↓淄博↓濟南と巡ってきた。

淄博から濟南へは高速公路で約一時間半道路の両側は見渡す限りの小麦畑が続いている。山東省は小麦の生産高が中国一だそう。

途中でバスが黄河のそばを通るといって見たいという我々の希望でバスを堤防近くに停めてくれた。想像したような黄河が見られることを期待して堤防に上ってみたが目に入ったのは河床にうず高く堆積した黄土ばかり。端の方に相模川の半分にも満たない小さな流れがあるだけ。その流れの上に板を渡しただけの簡単な橋の上を自動車が行き交っている。多分渇水期だけの交通手段であろう。

あるべき河の流れが消えてしまう一断面」という渇水現象が初めて発生したのは七二年、その後八五年ころから毎年枯渇ははじめ、九七年には海まで流れが届いたのは五カ月足らずだったという。

黄河の枯渇は北部の穀倉地帯だけの問題に止まらず、中国全体の穀物生産にとって大きな問題となっており、やがては世界の穀物市場に対しても影響を与えることになるだろうと言われている。

世界人口の五分の一、十二億の民が暮らす中国では、大気汚染・水質汚染・酸性雨・砂漠化・渇水など、さながら環境

黄河は青海省のヤホラタホツオ山を源とし、渤海に注ぐ全長四一〇〇キロの大河である。その流域には、すでに五千年以上も前に華麗な文化が開けていたことはご承知のとおりである。現在では蘭州・西安・洛陽・鄭州・濟南などの工業都市が河に沿って発達している。

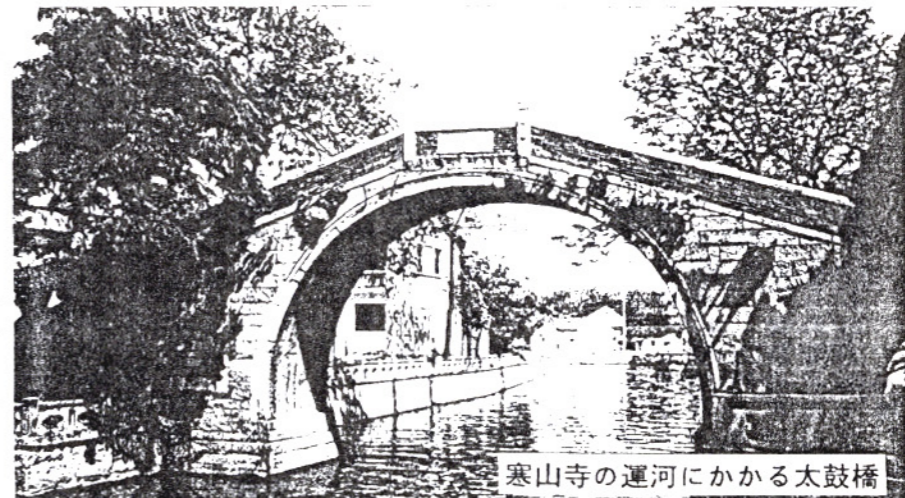
黄河は上流の流れは速いが、平野部に入るとゆるやかになり黄土高原から運んで来た土砂が堆積し、過去三千年間絶えず氾濫を繰り返して来た。

過去の治水工事が堤防だけに片寄っていたために河床が高くなり、この辺でもいったん増水すればたちまち水面は市内より数メートルも高くなってしまおう

問題の見本市のような様相を呈している。中国大好き人間の一人としては、いつまでも美しい自然と健康的な環境を保ってもらいたいものだと思う。

問題の見本市のような様相を呈している。中国大好き人間の一人としては、いつまでも美しい自然と健康的な環境を保ってもらいたいものだと思う。

問題の見本市のような様相を呈している。中国大好き人間の一人としては、いつまでも美しい自然と健康的な環境を保ってもらいたいものだと思う。



寒山寺の運河にかかる太鼓橋

(神山)

### 麻婆豆腐の本場で冷奴を食べた！

星期四班 末岡正敏

1994年、中国の成都にある四川連合大学へ四週間の短期留学をした時のお話し。

学生食堂の余り辛くはないが、朝昼晩と続く脂っこい食事に辟易し、日本から持参した梅干・ふりかけ・漬物等が残り少なくなった頃、留学生仲間の誰彼から、冷奴を食べたいという声があがりました。

勿論、刺身・みそ汁・野菜サラダ・焼魚等の食べたいベストテンでしたが、冷奴が一番実現できそうだという訳です。

四川省は麻婆豆腐の本場、実際学食でもしばしば食卓に供されましたし、豆腐は、路地裏の店で大きな塊りで売られています。かつおぶしこそありま

せんが、長ねぎもどきも、生姜も並んでいます。さっそく自作してみようと云うことになりました。

生水は厳禁なので「ス」が立たないよう且つ十分火を通し、一晚冷蔵庫へ。

おろしがねも包丁もまないたも手元がないので、万能ナイフで一時間かけて生姜をミジン切りに。その貴重な薬味と程よく冷えた豆腐を、翌朝一行の食卓に食堂が用意した料理と共に配膳しました。

味やいかに、と同級生の顔をドキドキしながら眺める間もなく、「うまい！」「いける！」。ダイヤのよう薬味がなんと早く消えることか！ 木綿豆腐より固めのニガリの効いた冷奴は、たちまち一行の胃袋へ。

麻婆豆腐はいざ知らず、おろしがねがなくとも、冷奴は四川に限る！

Qiáo běn shǒu xiāng yīn zì mín dǎng xuǎn jǔ shī bài cí zhí

## 橋本首相因自民党选举失败辞职

橋本首相、自民党の敗北で辞任

解説 今回の参議院選挙で、自民党は予想を上回る大敗を喫し、橋本首相の経済失政に対する国民の審判が下された。

七月十二日举行的第十六届参议院选举爆出冷门，执政的自民党不仅未能保持住六十一席位，而且还被赶离东京、大阪等城市，只获得四十四席位，落下惨败的结局。虽然在选举前，舆论已预测自民党可能会在选举中失利，但败得如此之惨，并最终导致内阁和自民党指导部成员集体辞职

，则是大大出乎人们的意料之外。

橋本首相已对此次选举失败承担责任，并于次日宣布正式辞职，而谁来继任首相一职已成为焦点。

普遍认为，国民对自民党和桥本政权在处理经济危机问题上表现出无能为力而感愤怒，从而把选票投给了成立不久的民主党和七十多年来保持党纲不变的共产党。此次投票率高达百分之五十八点八四，比上次投票率高出四个百分点，则已表明国民正期望通过自己的手来重新选择一个开明有力的政府。

●爆出冷门 bàochū lěngmén = 番狂わせ ● 席位 xíwèi = 議席 ● 失利 shìlì = 敗れる ● 导致 dǎozhì = 事態をひきおこす ● 出乎意料之外 chūhū yìliào zhī wài = 予想外なこと

●无能为力 wúnéng wéilì = 何もできない ● 选票 xuǎnpào = 投票用紙 ● 百分点 bǎifēndiǎn = ポイント ● 开明 kāimíng = 進歩的な





万里の長城の東端 山海関

今度のW杯アジア最終予選で中国はイランを2-0とリードしているが、逆転されちゃった。うるさがたの評によると「オレが、オレが」という国民性が見え隠れして組織プレーがうまく出来なかったのが原因だって言ってるよ。陸上や水泳・体操なんかの個人競技はメダルを取れるのに、やっぱ頭を切り替えなくっちゃ駄目なんじゃないの。

残念ながらニッポンチームは決勝トーナメントに進めなかったけどまあいい線いったんじゃないかな。

それにしても、リストラだとか失業率が4%に乗ったとか、銀行の貸渋りで倒産したとか円安だとか暗い話ばかりかなのに何千人もの球迷がフランスまで行って何十万もする闇の切符買ってW杯グッズを買いあさって、いったいどうなってんだろうね。

球迷の迷って字は、うつつをぬかすとか判断能力を失うとかの意味もあるようだから仕方ねえか。ま、心配すんのは橋本君にまかせて、オレはその焼鳥屋で焼酎でもひっかけて帰るとすんべか。

(无忧无虑者)

球 迷

競輪場へ行きやでっけえテレビがロハで見られるっちゃうから行って来たんだけどよ、いやはやびっくりしたね、球迷とやらがお祭り騒ぎしやがって、うるせえのなんのとでも見ちゃいらねえ。

球に迷うたってパチンコマニヤのことじゃねえよ。どこが面白えのか知らねえが、高い銭払ってフランスくんだけりまで出かけて顔に色を塗りたくって騒いでいる連中のようなやつらのことなんだよ。

それにしても中国人ちゅうやつはうめえこと表現するもんだね。サポーターなんて片仮名がねえ国だそうだから漢字で書くほか仕方ねえんだろうけどいっそのこと球狂とでも書いてもらいたかったよ。

サッカーのことを日本でもむかし蹴球とっていた頃があったけど、中国では足球(zu qiu)って言うらしいよ。なんでも95年にプロリーグが誕生して、北京や上海などの都市の対抗意識も加わって球迷たちは燃え上がっているみたいだ。なんつったって人口が12億もあんだから世界一の球迷人口なんじゃないのかな。

去年92歳で大往生した鄧小平という偉い人、16歳でフランスに留学したっちゃうからたいしたもんだ。鄧さんはその頃から足球が大好きになって娘さんが書いた「私の父鄧小平」という本によると鄧さんは国際大会を見るために一日の飯代に相当する5フランを払って切符を買ったと書いてあるらしい。文化大革命の後でもよくサッカー場に足を運んだらしくて、90年のW杯イタリヤ大会の時は全52試合のうち50試合をテレビ観戦したっちゃうから相当な球迷だ。

黄 砂

なにか異様な雰囲気を感じて目が覚めた。カーテンを開けて外を見る。なんだこれは？ 目の前の景色が消えてしまっているではないか。

九四年四月の初旬、敦煌のホテルの朝はこのようにして始まった。

北京から空路ウルムチへ飛び、トルファン郊外の砂漠の中に点在するベゼクリク千仏洞・高昌故城・アスターナ古墳などを見学し夜行寝台列車で柳園へ、そして鳴沙山・月牙泉などを見てから敦煌のホテルに入ったのだ。

中国もこの辺まで来ると大都市にあるような立派なホテルはない。泊まったのはソーラシステムを利用しているので「太陽能賓館」と呼ばれるこのホテルだ。不安な気持ちでホテルの玄関から通りに出て見る。ほんの五六メートル先のものさえばんやりとしか見えない。これが春先に日本にまで飛んで来る「黄砂」なのだ。

たいした風も吹いていないのにどうしこんなにか砂ほこりが舞い上がるのだろうか。砂ほこりといっても限りなく小さい微粒子だからただ空中に漂うだけであんな下には落ちてこないのがある。まるで濃い霧の中にもいるようだ。

この辺の中国人は漢民族とは違ってほとんどが碧い眼をしている。彼らはこんな自然現象には慣れてるらしくマスクをしたり頭から布を被ったりして悠然と歩いている。

今回の旅行の主目的である莫高窟の見学もこの黄砂のおかげで見学時間が半減してしまった。

さて敦煌に二泊し蘭州へ向かう予定の日になったが黄砂のために飛行機が飛ばないという。翌日もやっぱり飛ばないのでこの狭い敦煌に四泊もしてしまった。

旅行社もガイドもあせてきた。バスで蘭州まで行くという案もでたよ。うだ。しかし、黄砂で見通しのきかない砂漠の中の道を四十時間も走ったら乗客の身の安全が保証できないということでは中止となった。

結局火車を利用することになり、サバサのパンと塩辛いゆで卵、真っ赤なソーセージで慌ただしく昼食を済ませ柳園駅へと向かう。しかし座席の予約があるわけではないので席が確保できるかどうかはわからない。

とにかくそれぞれが重たいスーツケースを持って取り敢えず一般の中国人が利用する硬座の車輻に乗り込む。その間に現地ガイドが車掌と交渉してどうやら寝台車の席を確保することがで

きた。とはいっても、空き席に割り当てられる訳だから中国人と相部屋となるのである。

私の入ったコンパートメントは石油資源探査会社に勤める二人の青年と息子の家族を訪ねて鄭州の自宅に帰るといって七十才くらいの老人と一緒だ。二人の青年はとにかく親切で、瓜子(スイカの種)を食べないかと、パンをちぎって分けてくれたりお茶やジュースを飲ませてくれたり、もう辟易するほどだった。

窓の外の景色を見ようとした私に対してあの老人が「太脏了」と申し訳ないさそうにつぶやいたのが印象に残っている。それほど当時の列車の窓ガラスは汚れがひどかった。

このハブニングは私にとって又とない中国語学習の良い機会であったが、中国語のまったく判らないツァーのメンバー特にご婦人方にとっては心細い列車の旅ではなかったかと思われる。

北京では添乗員が置き引きに遭って団体ビザと搭乗券を持って行かれてしまったらトラブル続きの旅であった。

万事順調に推移している時よりも困難や苦しさに遭遇した体験の方が鮮明な記憶に残っているもので、この時の旅行は特に印象深いものであった。

(神山)



# 中国東北地方の旅

大連・旅順・二〇三高地という地名を聞くと、年配者にとってなつかしい思いがよみがえってくる。

日露戦争、一九〇四年頃の話だから今の若い人たちに興味がないのは当然だ。

日露戦争では世界の大国ロシアを相手にして勝利を収めたのだから日本中が沸き返ったことだろう。

二〇三高地を攻略し旅順を開城した乃木希典大将、ロシアのバルチック艦隊を撃破した東郷平八郎元帥と旗艦三笠の話は小学校の教科書に載り唱歌にも歌われていた。

七月の上旬、大連・瀋陽・丹東をめぐるツアーに参加することになったのも、子供のころ聞いたこれらの地を見てみたかったからだ。

一方、この地区には戦前何万人もの日本人が住んでいた。一緒に参加した人たちの中には、昔自分が住んでいた家や町並みをもう一度見てみたいという目的で来た人も多かった。

当時は一草木もない禿げ山だったという二〇三高地、今は鬱蒼と低木が生い茂り、山頂には藁莖を模した大きな記念塔がひとつ建っているだけだ。

乃木大将とロシアのステッセル將軍が終戦の会見をした水師營には会見所が再建され日本人観光客の訪れを待っていた。

瀋陽は遼寧省の省都、東北地方最大の都市であるが、最近では国営企業の倒産やリストラで巷には失業者が溢れていると言われている。北京や上海のような大都市に較べれば車も人も少ないが、表面的には結構活気があるように見えるのだが。

丹東というところは北朝鮮との国境の街だ。鴨緑江を挟んでその対岸はもう北朝鮮、遊覧船に乗ってかなり近くまで行ってみた。

造船所らしい所には多数のクレーンが空に伸びていたが動いているのは確認できなかつた。川辺で水遊びする子供たち、錆び付いた鉄船の上でじっとこちらを見つめる男。我々が手を振ると彼らも応じてくるが笑顔は見えない。あまり近寄るので誰かが「銃撃されるのではないか」などと心配していた。それほど北朝鮮という国は不気味な存在なのだ。

旅行を通じて感じたこと。一年前には一元が十四円だったのに今回は十七円を越えていた。中国元は米ドルとスライドしているので円安はそのまま影

響を受ける。大きな土産店ではかなり達者な日本語を話す従業員がいるが、ホテルではまず通じないと思つて差し支えない。一般の中国人につたない中国語で話しかけてみると、どうやらわかしてもらえませんが、彼らの話すことを理解するのは極めて難しい。教室で聞く老師の正しい普通話と現地での日常会話との違いを実感する。純粹さも大切だが雑草のような中国語にも慣れなければならぬと思つた。

(神山)

## 編集を終えて

一日も早くすかつとした夏空が待ちどおしいこの頃ですが皆さんお変わりありませんか。どうやら「にいはお」の第二号をおともにお届けすることができました。投稿が少なく苦勞いたしました。限られた人の文章だけでは内容が片寄り面白いものが出来ません。参院選の投票率ではありませんがたくさんの方の参加によって初めて会の運営も皆さんの望む方向へと進むのではないのでしょうか。次回は取捨に頭を痛めるくらいに投稿を期待しておりますのでよろしくおねがいいたします。